

地方創生にもみられるように地域の特徴を生かしながら、地域の持続的可能性を促す政府の取り組みや支援策が講じられている。地域の経済成長の場合、地域に根付いている知識や資源などを効率的に活用することができる産業クラスターに関する施策が進められている。産業クラスターは米
国ハーバード大学マイケル・ポーター教授により、企業が特定の地域に集積して

産業間ネットワークを探る

は国や自治体が主体となり産業クラスターを形成するため、成長産業の企業誘致が行われてきたが、一時的な経済成長は見込めるものの長期的には地域が期待する成果があげられないことが多かった。近年は地域の経済活動に即した産業クラスターを活用することが長期的な経済成長には効果的であることが判明してきていることから、地域特有の産業クラスターを見つけ出すことや産業クラスターの強化が図られている。

欧米では2000年代から公的機関が主導となり、産業クラスターを検出する産業間ネットワークを探るため、成長産業の企業誘致が行われてきたが、一時的な経済成長は見込めるものの長期的には地域が期待する成果があげられないことが多かった。近年は地域の経済活動に即した産業クラスターを活用することが長期的な経済成長には効果的であることが判明してきていることから、地域特有の産業クラスターを見つけ出すことや産業クラスターの強化が図られている。

産業間ネットワークとはある製品を製造するとき、どのような技術がともに利用されているかという産業間の結びつき（関連性の高さ）を示す。例えば自動車製造業はタイヤ製造業とは部品調達を通じたネットワークが構築されている。一方で、電気機械器具製造業とは電気自動車のような製品の開発を通じたインベータータイプなネットワークが構築されている。

地域にイノベーションを導くために

生産活動を行う状態と提唱され、そこでは成長の源泉となるイノベーションを導くと考えられている。

各国の政策立案者は地域経済の成長を達成するため、政策の重要項目として盛り込んできた。これまで



名古屋市立大学大学院
経済学研究科講師

山田 恵里

事業（クラスター・マッピング・プロジェクト）が行われている。産業クラスターを経験だけから判断するのではなく、実データに基づいた探索が実施されている。産業クラスターがどのような地域に分布しているかということについて、いずれの事業でも地図を用いて、分布範囲を地理的に把握することを目的としている。さらに産業クラスターは地理的な範囲だけではなく、関連する産業の範囲を表す産業間ネットワークを用いて、どのような産業の連携によって構成されているかということも分析されている。

産業間ネットワークとはある製品を製造するとき、どのような技術がともに利用されているかという産業間の結びつき（関連性の高さ）を示す。例えば自動車製造業はタイヤ製造業とは部品調達を通じたネットワークが構築されている。一方で、電気機械器具製造業とは電気自動車のような製品の開発を通じたインベータータイプなネットワークが構築されている。

筆者は現在、自動車産業のネットワークを解明する研究を行っている。各地に立地する日本の経済成長を担う産業のひとつである自動車産業クラスターの構造を明らかにし、今後の成長に寄与するインベータータイプなネットワークに関する知見を示したい。

やまだ・えり 都市経済学。名古屋大学大学院。博士（経済学）。1984年生まれ。

